

Clinical Engineer

×

「 Personality 」

CE × 「Hospital」

病院概要

Hospital overview



白石病院



白石記念クリニック



島田泌尿器科医院

社会医療法人 白光会
白石病院・白石記念クリニック・島田泌尿器科医院
<http://byakkokai.jp/>

勤務体制

早出・日勤・準夜勤
オンコール 隔日1名

主な業務

人工透析、特殊血液浄化、ME機器管理業務
水質管理業務、経皮的血管拡張術(PTA)

CE × 「Works」

業務内容

Job description



穿刺業務



エコー下穿刺



回収業務

人工透析業務

プライミング・穿刺・穿刺介助・回収業務が透析室内でのメインの業務になり、透析関連装置のメンテナンス・VA管理・透析医療補助システムの管理はCEが中心となって行っています。

白石病院：第1透析室(32床)・第2透析室(20床)計52床《オンライン対応：1台》、白石記念クリニック：2F透析室(57床)・3F透析室(28床)計85床《オンライン対応：38台》、島田泌尿器科医院：2F透析室 35床
患者監視装置：GC-110N・NCV-3・DCS-100NX・DCS-27・DCG-03、個人用患者監視装置：3台(DBB-27)

CE × 「Works」

業務内容

Job description



In Bodyを使用したDW管理



患者監視装置のメンテナンス指導



多人数用透析液供給装置のメンテナンス

ME機器管理業務

当院は透析治療に特化している病院なので主は透析関連装置の管理を行っています。また、治療におけるモニタリング機器での測定や管理も行っています。透析室以外にも外来・病棟・手術室にもME機器が使用されていますのでその管理もCEが中心となって各職種の方々と連携を取りながら行っています。

CE × 「Works」

業務内容

Job description



透析液のサンプリング



ET測定



生菌測定

水質管理業務

現在、透析治療の中で積極的に行われているon-line HDFにおいて水質管理は必要不可欠な業務の一つとなっています。当院では20年以上前から透析液清浄化管理業務を専用装置を用いて毎月行っています。

ET(エンドトキシン)測定装置：Wako社製 Toxinometer、生菌測定：37mmクォリティーモニター

CE × 「Works」

業務内容

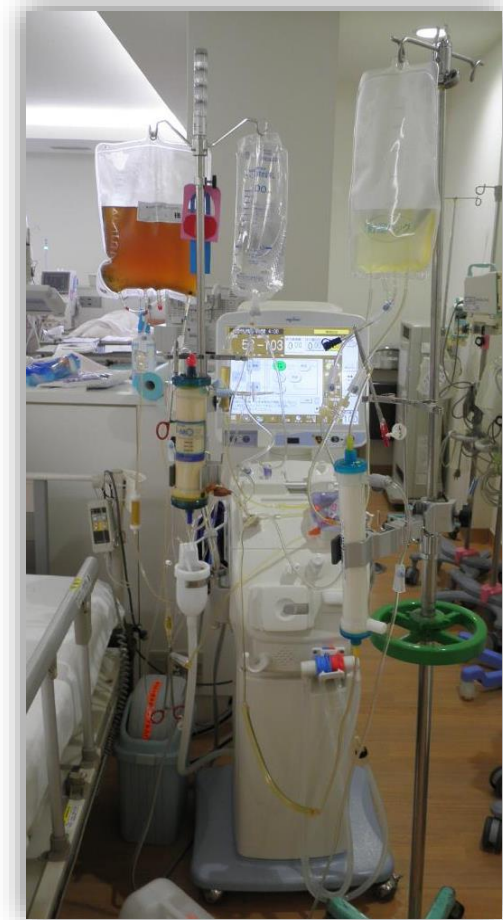
Job description



DFサーモ



CHDF



CART

特殊血液浄化、CART(腹水濾過濃縮再静注法)

緊急での血漿交換や血液吸着、CART(腹水濾過濃縮再静注法)なども行っています。

CE × 「Works」

業務内容

Job description



経皮的血管拡張術：PTA VA管理

透析患者のシャント閉塞又は狭窄時に経皮的血管拡張術(PTA)を行っており、院内患者だけでなく県内外からたくさんの患者が来院され、2017年でのシャント手術件数は2500件以上実施してます。臨床工学技士もVA管理業務として手術に立ち会います。

CE × 「Team」

臨床工学技士紹介



CEカンファレンス

毎月グループ内技士全体での合同カンファレンスを実施してます。各施設の報告や検討議題について話し合っています。各施設が一か所に集まるのが難しいときはインターネットでのWEB会議を行っています。

CE × 「Team」

臨床工学技士紹介



臨床工学技士 21名

白石病院 2名(男性1名 女性1名)
白石記念クリニック 15名(男性12名 女性3名)
島田泌尿器科医院 4名(男性3名 女性1名)

- ・透析技術認定士
- ・3学会合同呼吸療法認定士
- ・臨床ME専門認定士
- ・認定ホスピタルエンジニア

白石記念クリニック

H.31 2/13撮影時の出勤者

CE × 「Team」

各施設コメント

白石病院の臨床工学技士業務について

社会医療法人白光会白石病院 透析室 室長
臨床工学技士 持田康子

当院は2名の技士が在籍しており、アクセス外来を設けているため、感染や狭窄・閉塞、穿刺困難などVAトラブルの患者様が多く集まる施設です。臨床工学技士として、医療機器安全管理業務、血液浄化業務はもとより、VA手術室との連携や紹介元への適切、的確な情報提供に努めていきたいと思っております。また他部署と連携し、他職種に信頼される臨床工学技士を目指しております。

白石記念クリニックの臨床工学技士業務について

社会医療法人白光会白石記念クリニック 室長
臨床工学技士 横山嘉寛

当院では15名の技士が所属しており、血液浄化業務に加え、それに関わる透析液清浄化、医療機器管理を行っております。日々進歩する医療においては臨床工学技士の存在は大きく、様々な分野での活躍が期待されています。当院においても、スキルアップを目指し、セミナーや勉強会、学会への参加、認定資格取得など自分達のモチベーション向上に繋げています。そうすることで安全・安心な透析医療の提供が実現しています。今後もさらに患者様に満足して頂ける治療を提供できるように、さらに業務分野を広げ、臨床工学技士一丸となり取り組んで参ります。

透析室における臨床工学技士業務について

社会医療法人白光会島田泌尿器科医院
臨床工学技士 内野正秀

当院透析室は、ベッド数35床で、月水金2クール、火木土1クルールの透析を行っています。臨床工学技士4名が在籍しており、準備、プライミング、穿刺、透析中の監視、返血など日常透析業務のほかに、水質管理業務、透析装置及びその周辺機器のメンテナンス業務、血管伸展性検査、InBodyS10（体成分分析装置）測定などの業務を行っています。

今回、InBodyS10について紹介する。

ドライウエイトは、CTR, hANP, 心エコー、血圧などを考慮して判断するのが一般的と思われるが、当院では体内水分量を測定できるInBody S10を導入することで、より適正な設定が可能となった。

InBody S10は、生体電気インピーダンス法（Bioelectrical impedance analysis BIA）を基本原理としている。インピーダンスとは、人体に非侵襲の微弱な交流電流を流した際に発生する抵抗値であり、人体を構成する水分の量によって変わる。交流電流は、周波数によって細胞膜を透過する程度が異なることから、低周波から高周波数帯までの複数の周波数を用いて、細胞内外の水分を測定している。

測定は、透析終了後に左右第1・3指と左右踵の内側と外側の計8ヶ所に電極を取り付け、安静仰臥位にて行い、5分程度で終了する。

2016年4月に導入して、延べ1200名の患者の体内水分量測定を実施し、適正DWの設定に大きく貢献している。今後、体脂肪量、脂肪率、筋肉量の測定も可能なことから、さらにきめ細かな治療に役立てていきたい。